木元進一郎著

人事管理論の基礎

泉文堂版

著者紹介

木元進一郎
一九二七年生
明治大学教授
経営学博士

（主要著書）

人事管理の基本問題（泉文堂）
労働組合の「経営参加」新訂版（森山書店）
労務管理（森山書店）
労務管理と労働組合（労働旬報社）
労使関係論（編著・日本評論社）
日本経営学史（共著・日本評論社）
アメリカ労務管理学説研究（共著・未来社）
日本の労務管理（共著・青木書店）
その他多数

（人事管理論の基礎）
昭和五二年四月二〇日　第一刷発行
定価一三〇〇円

著者　©木元進一郎
発行者　大坪嘉春
印刷所　東京都千代田区猿楽町二の六の三　松沢印刷株式会社

発行所　東京都新宿区下落合一―二―一六　株式会社　泉文堂
電話東京（951）九六一〇
振替東京5―一三八〇四
郵便番号　一六一

3034―177003―3908

序文

ここに『人事管理論の基礎』が刊行される運びとなったことは、著者の喜びとするところである。本書の前身が、『人事管理の基本問題』と題して公刊されたのは、一九五四年のことである。その後、この分野の研究は、内外にわたって少なからず蓄積されてきたし、人事管理の問題状況やその具体的方法・制度は、大きな変化・発展を示してきている。こうした推移のもとで、旧著『人事管理の基本問題』の出版元から、数年前より旧書をもとに人事管理に関する研究を新しくまとめるよう数次にわたって慫慂されてきた。

旧書は、今にして思えば不十分な点や不適切な表現の点も少なくはないが、わたくしにとっては最初の著書でもあり、また人事管理研究に乏しいながらも一定の貢献をなし得たものとの自負をもっている忘れがたい作品である。本書は、この旧書をもとに、全面にわたって加筆・訂正を行うとともに、若干の論文をさしかえることによって作成されたものである。ここに新しく収められた三篇の論文は、一九五五年から五七年にわたってそれぞれ発表されたものであり、その意味では、かならずしも新しいものとは言い得ないにしても、いまなお一定の意味をもっているものと、著者には思われる。

本書が、旧書と同様にこの分野の研究に多少とも寄与をなし得るならば、これにすぎる喜びはない。このよう

な姿で、本書をまとめあげることができたのも、多くの先輩、同僚の方々からのご垂教と、市場性の薄い本書の刊行をおすすめ下さった泉文堂のご好意との賜であることを、深く肝に銘じて、謝意を表する次第である。

木元進一郎

一九七七年三月一日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

法律学書

手塚・伊東・新田 共編	入門 法律学辞典	価 1800円
峯村光郎著	法学十講	価 200円
高田 章著	法学要論	価 1800円
大山正武著	憲法概論（改訂版）	価 1800円
原田綱夫編	法学・憲法	価 1700円
久野康彦著	現代憲法と民主主義	価 1400円
小池隆一著	改訂 民法概説	価 1300円
今泉孝太郎著	改訂 新民法総則	価 2700円
細田弥彦著	民法（I）	価 1100円
細田弥彦著	民法（II）	価 1200円
須藤裕久著	商行為法・手形法・小切手法	価 1900円
青柳文雄著	刑法通論（I）総論	予価 3000円
青柳文雄著	刑法通論（II）各論	予価 3000円
高田 章著	改訂 労働法概説	価 1300円
高田 章著	増補 官公労働法	価 2000円
高田 章著	改訂 労働法	価 2000円

泉文堂

経済学書

小泉信三著	初学経済原論〔復刻版〕	価 750円
吉田啓一著	理論経済学概説	価 1800円
吉田啓一著	経済学三十講	価 750円
北原金司著	改訂 経済学要綱	価 900円
熊切信男著	経済学の概念	価 1700円
鈴木諒一著	新版 ケインズ以後の経済学	価 980円
高橋誠一郎著	経済学史略	価 3200円
戸田武雄著	経済学史のはなし	価 750円
宇尾野久著	西洋中世初期社会経済史研究	価 700円
吉田啓一著	ジョン・ローの研究	価 1700円
北原金司著	西洋経済通史	価 1800円
望月清人著	社会政策論の基礎	価 1000円
鈴木諒一著	現代の物価問題	価 1200円
鈴木諒一著	北欧学派	価 2000円
亀畑義彦著	シュムペーター体系とポストケインジアン体系	価 2000円
梅津和郎著	国民の経済学	価 1000円

泉文堂

経営学書

山下勝治著	損益計算論〔復刻版〕	価 2200円
和田木松太郎著	現代簿記提要	価 1400円
和田木松太郎著	新訂二版 財務管理（理論とケース）	価 1800円
藤芳誠一著	新経営管理論	価 2000円
山本勝也著	増補 経営管理の理論と実際	価 2000円
村山元英著	国際経営比較論	価 2200円
水越潔著	証券資本集中論	価 1600円
国弘員人著	全訂 企業形態論	価 1900円
森五郎著	新訂 労務管理概論	価 2000円
醍醐作三著	労務管理論序説	価 1200円
カール・ハツクス著 印南・森宮共訳	保険要論	価 1100円
島村陽来著	改訂 工業経営論	価 1300円
麻生平八郎著	海運論	価 1800円
中江剛毅著	日本の情報システム管理	価 2000円
藤芳誠一著	蛻変の経営	価 980円

泉文堂

目次

第一編　人事管理論の形成・発展……三

第一章　科学的管理と人間関係論……五

Ⅰ　はしがき……五
Ⅱ　科学的管理の展開……九
Ⅲ　『厚生資本主義』の生成……二四
Ⅳ　『厚生資本主義』とモラール問題……三四
Ⅴ　人間関係の構造……四六
Ⅵ　人間関係論とモラール……五九

Ⅶ むすび……七六
第二章　労働意欲およびモラールとインセンティヴ制度……七九
Ⅰ 問題の所在……七九
Ⅱ 労働意欲と金銭的インセンティヴ制度……八四
Ⅲ 金銭的インセンティヴ制度と労働組合……一〇二
Ⅳ モラールとインセンティヴ制度……一一一
Ⅴ モラールと労資関係――若干の結論にかえて――……一一九
第三章　インセンティヴ制度と「能率増進」……一二三
Ⅰ 問題提起……一二三
Ⅱ インセンティヴ制度の本質……一二六
Ⅲ 『能率』概念の吟味……一二七
Ⅳ インセンティヴ制度と『能率』……一五一

第二編　人事管理と労資関係……一六五
第一章　経営労務と労働組合……一六七
Ⅰ　序……一六七
Ⅱ　経営労務の構造とその展開……一七二
Ⅲ　経営労務と労働組合……一九〇
Ⅳ　人事管理と労働関係――若干の考察――……二〇二
第二章　『オートメーション・ストライキ』と労資関係……二〇五
Ⅰ　はじめに……二〇五
Ⅱ　コヴェントリー・ストライキの経過と問題点……二〇七
Ⅲ　ウェスチングハウス・ストライキの経過と問題点……二二五
Ⅳ　おわりに……二三三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第三編　経営社会学の理論と系譜……二二七

第一章　経営社会学の生成と系譜……二二九

Ⅰ　はじめに……二二九

Ⅱ　時期区分……二三二

Ⅲ　経営社会学の前史……二三三

Ⅳ　経営社会学の生成……二三六

Ⅴ　経営社会学の展開……二四四

Ⅵ　おわりに……二五二

第二章　シェルスキイの経営社会学……二五九

Ⅰ　まえがき……二五九

Ⅱ　経営社会学の生成と歴史……二六二

Ⅲ　経営の社会学的概念……二六五

Ⅳ　経営社会学の研究領域……二六七

Ⅴ　あとがき……二七一

人事管理論の基礎

第一編　人事管理論の形成・発展

第一章　科学的管理と人間関係論

Ⅰ　はしがき

企業における人間要素をめぐる諸問題が、経営管理上きわめて重要な問題として認識されるとともに、人間要素をめぐる重要な課題として、そしてまた、人事管理（personnel managemennt, Menschenführung）の基本的な課題として、モラール（morale）の維持・高揚の問題が近時あらためて指摘され、多くの論者によってとりあげられていることは周知のところである。(1)

とくに、一九二七年より米国のウエスタン・エレクトリック会社のホーソン工場において行われたホーソン・エクスペリメント（Hawthorne Experiments）として知られている一連の調査研究によって、モラールの問題のもつ重要性があらためて強調されるにいたった。それとともに、ホーソン・エクスペリメントは、モラールの問題に対して解決の一つの方法を明示した。モラールの問題に対して、ホーソン・エクスペリメントが明示した解決の方向は、『人間関係論的研究方法』（human relations approach）による、企業におけるいわゆる人間関係の研究

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com